様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 22 年 6 月 17 日現在

機関番号:20104
研究種目:基盤研究C
研究期間:平成 19 年度～平成 21 年度
課題番号:19530709
研究課題名(和文)ヤヌシュ・コルチャックの子ども・教育思想の歴史的形成(1890-1920 年代)
研究課題名(英文) A historical study on Janusz Korczak's thoughts about Chidren and Education(1890-1920)
研究代表者
塚本 智宏(Tsukamoto Chihiro)
名寄市立大学 保健福祉学部・教授
研究者番号:20183866

研究成果の概要(和文):
本研究は、子どもの権利思想のフロンティアとして世界的に注目されている J.コルチャックの子ども観・教育思想の形成過程を 19 世紀から 20 世紀の世紀転換期の歴史的背景において検討し、その思想の中核においては過去のフレーベルやペスタロッチら先人の子ども・教育思想を継承しながら子どもは「すでに人間である」との信念を堅持し、これを欧米の「新教育」思想や運動に照らしながら人間としての子ども尊重という思想を基盤とする教育思想を探究し続けまたその実践を目指していたことを明らかにしている。

研究成果の概要(英文):
This study examines the process of formation of Janusz Korczak's thoughts about children and education on the historical background around the turn of 19c. - 20c. He is the object of attention as a frontier of the child right thoughts worldwide.
The following should be concluded. Succeeding to predecessors' (Frobel and Pestalozzi and others) thought of child and education, in the kernel of Korczak's thought, keeping hold fast to the belief " The child is already human" and comparing his thought with thoughts of "New education" of Europe and America, he had searched for the educational thought which has the basic thought of child respect as human ,and had attempted in his educational practice all his life.

交付決定額

(金額単位:円)

	直接経費	間接経費	合 計
19 年度	500,000	150,000	650,000
20 年度	500,000	150,000	650,000
21 年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総 計	1,500,000	450,000	1,950,000

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：教育学・教育学
キーワード：コルチャック、子どもの権利、教育史、ポーランド、教育思想

１．研究開始当初の背景

ヤヌシュ・コルチャック（本名ヘンルィク・ゴールトシュミット、1878-1942 年）は、戦後ヨーロッパでホロコースト犠牲の象徴的存在として知られていた人物で、また、わが国においては特にそうであるが、1990 年代に入り国連の子どもの権利条約の成立・実施との関係でさらに注目されるようになった人物である。本研究は、そのコルチャックの子ども観・教育思想の形成のプロセスとその歴史的意義の解明を試みようとしたものである。わが国ではこの人物の生涯や活動について、いくつかの伝記的書物が著されて来たが、本格的なしかも歴史研究といえるものはなかった。幸いポーランド本国において、体制転換以降、コルチャックの著作の文字通り『全集』の刊行がはじまり研究資料環境は著しい前進を見せ、また、本国でのコルチャック研究の自由な議論も生まれつつあった。本研究はこういった時期に着手された。

さて、本研究がコルチャックの思想形成を解明するうえで最も重視しているのは、わが国でとくにその関心が強いが、20 世紀初頭以降の国際的な子どもの権利条約成立史のひとコマとして、彼の思想や生涯はどのような位置を占めるのかという点であり、その点の解明のためにも、彼の思想の全体あるいはそれを貫く基軸といえるものを把握するために、この思想を歴史的な起源やまたその歴史的な展開において追跡する必要があった。

２．研究の目的

本研究の課題は、研究テーマにそくして、特に彼の「子どもの権利」認識を基盤とするコルチャックの教育思想が、19 世紀末から 20 世紀にかけて、(1)その世紀転換期の新しいポーランド・ワルシャワの歴史・思想・文化的状況のなかで、また、(2) 同期のロシア・ヨーロッパの子ども・教育思想状況の新たな展開、すなわち新教育運動とその思想の広がりのなかで、そして、(3)彼の具体的な社会活動や養育施設などでの教育実践の試みのなかで、どのように形成され深められていったのかを歴史具体的に解明することにあった。

３．研究の方法

上記の研究目的に照らして、これに必要な基本的な歴史資料の調査・収集・分析を行った。国内のいくつかの図書館の他、ポーランド国立図書館、ワルシャワ国立大学並びにコルチャック研究所・コルチャックポーランド協会を訪れ、コルチャックの過去の全集資料やコルチャック教育論に関する基本文献・論文の調査・収集をはじめとして、多数のポーランド等の教育史関係の基本文献の収集を行うとともに分析作業を行った。

また、これら研究資料の収集を行うとともに、ポーランドのコルチャック研究者との研究交流を行った。ワルシャワ大学の Wieslaw Tomasz Theiss タイス教授やポーランドコルチャック協会代表（当時）の Jadwiga Bińczycka ヴインチツカ教授またコルチャック研究所コルチャック文書専門研究者 Marta Ciesielska チェシェルスカ女史、さらに現協会会長で国立ワルシャワ特殊教育アカデミー（大学）の Barbara Smolińska-Theiss スモリンスカ-タイス教授らとの研究交流を行い、コルチャックの思想に関する研究状況・研究方法に関する多くの助言・示唆をいただいた。なお、ポーランド滞在中の研究交流に際してはワルシャワ在住の松本照男氏並びに鈴木亜里（ワルシャワ大学教育学部大学院修士課程在学）には通訳を含めて多大なご協力・支援をいただいた。

４．研究成果

本研究で得られた知見や明確になった課題など、本研究の成果は、未発表の点を含めて以下の諸点である。

(1) 19 世紀 90 年代から 20 世紀にかけてのポーランド・ワルシャワの歴史・思想・文化的状況との関連で、コルチャックが「子ども研究」に強い関心を示すようになる背景を具体的に明らかにした。①既に指摘してきたロシア帝国植民地下の民族解放運動・社会運動の高揚とそこでの次世代への期待という歴史のうねりのなか、世紀転換期ポーランドの子ども心理学研究への着手や児童向け出版書籍の広がり、さらに子どもを主題とする絵画芸術の表れなど、いわばポーランドにおける「子どもの発見」といった歴史状況が生じていたこと、②他方で、若きコルチャックが子どもに関心を示す国内外の文学の影響があり、特にその主題が孤児の問題であったことを確認した。これは同時にワルシャワに

おいて急激な人口集中・都市化を背景に進行していた現実の問題であった。ここに述べた歴史状況はこれまでの研究を整理して得られた知見であるが、これらの考察のなかで、さらに、若きコルチャックが自らに課した解決課題はヴィクトル・ユゴーがレ・ミゼラブルで提起した 19 世紀に現れた人類的課題のひとつ、「親のいる孤児」の問題であったとの仮説を提示するに至った（第 52 回教育史学会にて報告）。

(2) 若いコルチャックがその思想を形成するうえで三者、H.スペンサーの他、J.ペスタロッチと F.フレーベルに強い関心を示していたことは知られているが、本研究ではコルチャックが手にしたであろうこれらの人物やその思想を紹介した当時の「新教育」に関する基本文献や三者の原典（ポーランド語訳）を分析し、思想内容を含め彼らのコルチャックへの影響を確認した。すなわち、そこには子どものなかに「人間」と「自然」をみるという姿勢・思想があり、これら先人の姿勢・思想を継承しながら、この後子どもは「既に人間である」との信念を一貫して持ち続け、彼の晩年にいたるまでの思想形成の核となっていることを確認した（同報告 ;『子どものしあわせ』710 号）。

(3) コルチャックはこういった姿勢を持ち続けながら、欧米に広がっていた新教育運動やその思想に対して、これらをずっと追跡していたといわれている。従来それ以上の内容に踏み込んだ評価はなされてきていない。本研究では、彼の思想と新教育の思想との間の接点あるいは重なりをいくつか確認した。例えば「今日という日に対する子どもの権利」といったコルチャックにおいては相当深められた思想であるが、これは、当時の新教育運動の中心にいた E.クラパレードの他、当時の多くの新教育思想家や実践家の言説のなかに見られるものである。また、人生のなかの子ども期の意義についての E.クラパレードによる J.J.ルソーの引用やそれに対する評価は、コルチャックの子ども期に関する考え方と相当な程度重なりがある（日本教育学会第 66 回大会ラウンドテーブル報告;『子どものしあわせ』703 号）ことも確認でき、こういった新教育思想の影響は明らかだといってよい。

ただしかし、決定的な違いは、クラパレードがルソーについて賛辞を与えている表現で彼自身もそうであったと考えるが“ルソーが子どもの中に子どもを”見ようとしていたのに対して、コルチャックはあくまでも“子どものなかに人間”を見ようとしており、その違いは子どもの権利・人権を考える大きな分岐点になると考えられる。

（4）コルチャックの教育実践については雑誌連載のいくつかの記事（『子どものしあわせ』705-708 号）でおおづかみなスケッチをするところに止まった。①夏季休暇村（夏期コロニー）でのボランティア活動に入る頃から子どもたちによる自治活動を試みていたこと、それを踏まえて本格的な孤児院での自治活動を展開していたこと、②そこでの運営の方針やシステムに関する教育的意義、子ども同士のみならず大人と子どもとの公正な関係の確立をめざすコルチャック独特の「仲間裁判」制度について、これらに関する小論をいくつか発表した。今後はこの制度を含む実践の精緻な研究を通じてそこで深化していく彼の思想の変化を追うことが重要な課題である。

（5）教育実践活動の一つ、夏季休暇村活動は、ポーランドが一時ヨーロッパでもっとも活発であったといわれていたこと、また、その活動の主体として 19 世紀から 20 世紀にかけてポーランドの医者たちによる衛生教育運動が展開されており、コルチャックの活動もこの流れに押されて展開したものであること、さらに、こういった子どもの権利擁護の活動は 20 世紀に入り、二つの悲惨な大戦を経て、さらに戦後に至るまでも脈々と受け継がれていたとの展望を得た。このプロセスは、コルチャックの生涯や活動を傍証するものとして極めて重要な研究対象である。

（6）20 世紀ポーランドにおける孤児・浮浪児の対策の問題はすでに第一次世界大戦より深刻であり、これらポーランドの独立（1918 年）前後の政策的展開のあとを追跡することは不可欠の作業であるが、本研究では、この点に関するいくつかの基本資料を収集するにとどまった。1920 年代以降、つまり、コルチャックの活動の「黄金時代」ともいわれている時期について、彼の帰国以降の活動や発言の意義について充分な評価を行うために、今後この作業を急がなければならない。

（7）資料収集の過程で確認しえた点では、当時のポーランドにおいて既に「子どもの権利」を現実の課題とする社会的事実が散見され、今後はこれらの事実とコルチャックの思想などとの距離感を測りつつ、（5）（6）とあわせてポーランドの歴史の流れに正確に位置づけて検討することが課題である。

（8）コルチャックの思想や活動に関する歴史的評価は、その「偉大さ」ゆえに様々な過剰・過少のその時々の政治的評価と重なり、特に戦後においては、しばしば歪んだものにならざるを得なかった。コルチャックの思想

と活動についての、戦後の体制転換に至るまでのコルチャック評価の歴史的展開を追ったW．タイス氏の論文に学ぶところが大きかった。報告者の所属する大学紀要で紹介している。

（9）コルチャックの著作そのものに関して日本では翻訳紹介も未だ不十分な現状のなかで、若い研究者（鈴木亜里）との共同作業で、教育学著作の著名な作品の一つ『教育の瞬間』の翻訳・紹介を試みた。『子どもをいかに愛するか』の寄宿舎編と共に、彼の子どもに対する教育者のみならず、やはり医者としてのアプローチに関する自己分析などが含まれており、彼の子ども・教育思想の特異性を考察するときのいわば「医学的」アプローチの必要性を痛感させられた（『保健室』, 2009 年 10 月号）。

（10）以下研究資料の収集状況について報告する。

コルチャックの教育学著作といわれるもの原典は、①1910 年代から 1920 年代に公刊されたものの他、戦後、②1950 年代と、③1970 年代にそれぞれ編集された教育学著作選集があり、その後、④1980 年代にはこれらを補充・傍証するシリーズものの資料集（コルチャックの思想抜粋集・コルチャックの伝記編年記録資料集・コルチャックに関する回顧・回想録）が刊行されている。そして、体制転換以降は、まもなくその編集が終了する⑤『コルチャック全集　全 16 巻』の刊行が続けられてきた。我が国では未だ大学を含め日本の公共図書館には収められて来なかった全集であるが、これについては刊行済みのものは、そのほとんどをワルシャワのコルチャック研究所より譲り受け、北海道大学のスラヴ研究センターに一括寄贈した。⑥以上の他、近年のコルチャック研究基本文献を入手した。

収集文献のうち最も重要なものを以下に掲載する。

①（戦前の文献　複写文献）

1.Jak kochać dzieci: Dziecko w rodzinnie, Warszawa,Krakow1919,

2.Jak kochać dzieci: Dziecko w rodzinnie, Warszawa,Krakow 1920,

3.Jak kochać dzieci: Internat, Kolonje letnie, Warszawa,Krakow ,1920,

4.Jak kochać dzieci: Dom　Sierot, Warszawa,Krakow 1920,

5.Jak kochać dziecko:Dziecko w rodzinnie, Warszawa,Krakow ,1929.

6.Jak kochać dziecko: Internat, Kolonje letnie, Dom Sierot,Warszawa, Krakow ,1929,

7.Mośki Joski i Srule,Lwów,1910,

8.Sława,Warszawa, 1913,Warszawa,

9.Momenty wychowawcze, Warszawa, 1924

10.Prawo dziecka do szacunku, Warszawa, Kraków, 1929

②1950 年代の文献

11. Janusz Korczak, Wybor pism, Warszawa, t.1(1957), t.2(1958)、I. Newerly(wybór)

③1970 年代入手なし

④1980 年代

12.Wspomnia o Januszu Korczaku, 1981,Warszawa.

⑤『コルチャック全集　全 16 巻』

13. Janusz Korczak , Janusz Korczak dziela, t.1-14(3-cz2 除く), Warszawa, 1993--2008.

⑥　その他の文献

14.Aleksander Lewin,Korczak znany i neznany,1999,Warszawa

15.Janusz Korczak,List i rozmys'lania palestyn'skie,Warszawa,1999

16.Korczakowskie dialogi / red. nauk. Jadwiga Bińczycka. 1999

17.Erich Dauzenroth,Janusz Korczak Życie dla dzieci,Krakow,2005

18.Jadwiga Bińczycka,Spotkanie z Korczakiem,Olsztyn,2009

19.Słowo do dzieci i wychowawców / Stefania Wilczyńska ; wybór i oprac. Barbara Puszkin, Marta Ciesielska ; Warszawa , 2004

20.M.Falska,Nasz Dom,cz.1-2,2007, 2008,Warszawa,

21.Janusz Korczak Bibliografia polska 1943-1987,1988,Heinsberg

22.“Dialogue and Universalism” (Polish Akademiy of Sciences) 9-10/2001（部分複写）

23.“Demokraticzeskaja Szkola” No.2, 2006.

以上の文献については、すでに入手済みの研究文献目録に収めて、ホームページに記載・公開している（後掲アドレス）。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計９件）
塚本智宏,子どもの権利思想の歴史とコルチャック,『子どものしあわせ』,査読無，2010 年 6 月号，710 号、50p.-55p.
塚本智宏,コルチャックの教育実践と子どもの権利（その 4）,『子どものしあわせ』,査読無，2010 年 2 月号，708 号、46p.-49p.
塚本智宏，コルチャックの教育実践と子どもの権利（その 3）,『子どものしあわせ』,査読無，2010 年 1 月号，707 号、46p.-49p.
塚本智宏，コルチャックの教育実践と子どもの権利（その 2）,『子どものしあわせ』,査読無，2009 年 12 月号，706 号,44p.-47p p.
塚本智宏，コルチャックの教育実践と子どもの権利（その 1）,『子どものしあわせ』,査読無，2009 年 11 月号，705 号、44p.-47p.
塚本智宏，子どもの権利大憲章　三つの基本的権利,『子どものしあわせ』,査読無,2010 年 9 月号，703 号，42p.-45p.
塚本智宏,Dr.コルチャック 子どものなかに人間と自然を見る－子どものからだと心に耳をすまして－『保健室』，査読無，2009 年 10 月号、80p.-84p.
塚本智宏論文資料紹介、鈴木亜里訳、W．タイス著“ヤヌシュ・コルチャック 政治的肖像”,『名寄市立大学紀要』，査読無，第 3 号，2009 年 3 月，111p.-122p.
塚本智宏翻訳資料紹介，塚本智宏・鈴木亜里共訳：ヤヌシュ・コルチャック著“教育の瞬間”,『名寄市立大学紀要』，査読無，第 2 号，2008 年 3 月，紹介 49-52p.，翻訳 53p.-67p.

〔学会発表〕（計３件）
塚本智宏,コルチャックの”子ども権利”の内容と意義について-最近の研究動向の紹介と検討について-日本教育学会 68 回ラウンドテーブル報告,2009.8.29,東京大学
塚本智宏，“ヤヌシュ・コルチャックの子ども・教育思想の歴史的形成（1890-1920 年代）－子どもを人間として尊重する思想の形成を中心に－教育史学会第 52 回大会，2008.9.21，東京・青山学院大学
塚本智宏，コルチャック思想形成と新教育，日本教育学会第 66 回大会ラウンドテーブル報告,2007.8.30,東京・慶応大学

〔その他〕
ホームページ等
コルチャック研究基本文献資料目録
http://www2.plala.or.jp/korczak/index.html

６．研究組織
(1)研究代表者
塚本　智宏(Tsukamoto Chihiro)
名寄市立大学 保健福祉学部・教授
研究者番号：**20183866**
(2)研究分担者
なし
(3)連携研究者
なし

以上